

第五回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：紫苑

【日時】

11月10日（水）19：00～21：00

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

- ・ 前回の話し合いの内容確認
- ・ 中間発表会について

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

ステップ2：グループディスカッション

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の話の内容確認、議事録の確認がなされた。一部の内容に対し、意見が出された。

【中間発表会について】

11月23日に行われる中間発表会について、大まかなタイムスケジュールや当日の出欠の確認が行われた。

ステップ2：グループディスカッション

今回は事前に配布していた中間発表会用資料案に対して意見を出し合うこととした。

【中間発表会資料の全体の構成について】

- ・ 「産業」「高齢者」「教育」の問題が紫苑グループの議論の3本柱といえる。よって、今回の発表もそれを強調したらよいのではないか。
- ・ 発表資料の最後の2枚にある「課題解決関連図」のみ発表したらよいのではないか。その前にある4枚分は、こういう議論を重ねてきたという参考資料としたらよいのではないか。
- ・ 課題-解決策や項目間のリンクを体系付けたチャートに示して発表したらよい。

- ・ 財政の健全化と言っても、議員のムダ遣いの話や国からの交付金額の話など、提言としてふさわしくない問題が含まれてしまう。財政が足りなくなる課題が、議論の出発点として挙げられるという形で論じたらいいのではないか。よって、大きく掲げるべき問題はそれを解決するための「産業・まちの活性化」である。
- ・ よい意味での社会モデル(縮図)のような、小さいながらも、こういうように対応できる地域社会があるよ、ということ発信できるような将来像が提言されたら大変有意義であるだろう。先見の明のある「荒川型」というのがつくれたらよい。
- ・ どこを発表しているかわかりやすいように、項目に番号をつけた方がよい。
- ・ 同じような内容のことを別の言い回しで表記しているものは、極力ひとつにまとめ、シンプルにした方がよい。
- ・ 項目ごとの括りの部分は色分けした方が見やすいのではないか。



【中間発表会資料の個別修正意見について】

- ・ 「下町」という言葉は、生まれも育ちも荒川区という人は使わない。全体としてなるべく「下町」という言葉は使わず、単に「まち」としてはどうか。
- ・ 2 ページ目の「地域連帯/下町風情」という項目は「まちの風情」とし、その内容として書かれている「下町情緒」「下町の雰囲気」「下町的」の意見は同じ内容なので一つにまとめ、下町風情と人情があるといった表現にする。
- ・ 外国人が増えてきた、という表現があるが、今は目立ってきただけではないか。
- ・ 「職住混在」という言葉は「住工混在」とした方がよいのではないか。
- ・ 荒川区には林はないので「林」という言葉は「緑地」とした方がよい。また、緑地の管理については「管理がされていない」ではなく「管理がされていないところが多い」がよい。
- ・ 「区民の姿勢が現状維持型である」は、そうでない人に対して失礼なので「区民に現状維持型が多い」にするのがよい。

【その他個別意見】

- ・ 「荒川区の良いところ」として人情があるといった意見があるが、以前と比べたらずっと冷たくなった。最低限の人情がある、または、他区と比べれば人情がある、という程度ではないか。
- ・ 清掃が行き届いていれば、汚そうとする人もいなくなるし、犯罪も起きなくなる。防犯の面からもまちの清潔は必要となっている。
- ・ つくばエクスプレスは、利用する人にとってはとても便利な路線だが、実際の利用者数はあまり

多くはなさそう。その例からとってみても、うまく路線を有効活用する手段を考えなくてはいけない。

- ・ 中学校は定員割れしているのに、統廃合せずクーラーなどの設備を全学校に対して行った。これは議員が選挙で勝ちたいために、その場しのぎで言ったことが実現してしまったものといえるのだが、こういう議員を当選させたのは区民である。区民一人一人がもっとよく考えることが財政健全化につながるという側面もあることを考えなくてはいけない。
- ・ 「荒川区財政のあらまし」で「少ない区民負担で高額のサービスを実現」と書いてある。こんなことがいつまでもできるのだろうか。例えば、幼稚園児の家庭に対する補助金は北区、足立区、埼玉県と比較しても荒川区は悪い水準ではない。しかし税収が少ないので、今後苦しくなっていくだろう。政府のお金に頼るのではなく、ある程度自分たちで出して辛抱する「適宜な区民負担で基礎的サービスを実現」というような社会にすべきかどうか。民意を問うべきだと思う。
- ・ 区の所有地を開放して畑にし、自然にかえろうといったような将来に対する夢も、財政健全化と並立させて提言としたい。現実の問題だけでは机上の論理だけになってしまう。
- ・ 行政は、町会という存在を認め、町会組織をどう生かしていくのかということを考えていくべき。今はたった50、60万円の補助金で資源ゴミのことやレスキュー隊編成を町会にさせて、区の出先機関と言っている。しかしこの程度の中途半端な、単なる押し付けのような形ではなく、防災については町会に依存するというくらいの方向をつくれればいいのではないか。
- ・ 町会という組織では高齢者が大変活躍している。ここに高齢者の力が生きる方向性がみえてくる。
- ・ 防災に関する細かいマニュアル作りがされていないのではないか。シミュレーションまで行って、区民全員がよくわかるようなマニュアルがなければ実際の対応はできない。

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

- ・ 中間発表では、「産業」、「高齢者」、「教育」の3本柱を論点として絞り、発表資料の最後の2枚にある「課題解決関連図」をまとめてわかりやすい関係図にしたものを資料とすることを確認した。

ステップ4：その他

中間発表会は、11月23日(水)13:30より。